

## 【講師の先生による指導講評】

〔大田区教育指導課 STEAM 教育専門員 清水 一豊 先生〕

- ・「地域」を題材とした単元を設定したことで、児童が地域の一員としての自覚をもちながら学習に取り組むことができる。また地域のよさについて知るためにインタビューを行うことを通して地域の方との交流が生まれ、児童や学校が行う教育活動に関して理解してもらう機会となった。
- ・「CMづくり」という活動を単元に取り入れたことで、ICT機器の活用につながっている。Adobeの技術を習得することは、児童が今後自分の思いを形にする際に一つの選択肢として大いに役に立つと考えられる。
- ・発表する活動では、台本を見ずに聞き手の目を見て話している児童が多かった。台本を見ずに話すことのメリットは以下の2点である。
  - ① 相手の反応を見ながら話すことができる。説明が不足していると感じた場合は付け足して話すなど、コミュニケーションをとりながら発表することが可能となる。
  - ② 聞き手は相手が発表内容をよく理解していると感じ、説得力が増す。

## 【研究の成果】

- コロナ禍に入学した児童は、町探検を十分に行うことができなかった。今回は池上のよさを支えている人に直接会いに行き、話をすることができた。アンケートによると「地域のことは好きだが、自分から関わることは少ない」と回答する児童が多かったが、この活動を通して自分から関わることができ、改めて地域の温かさを実感し、地域の一員としての自覚が高まった。
- ICT機器技能が向上しただけでなく、情報を発信する側の責任についても学ぶことができた。個人情報観点だけでなく、取材された人の意図と相違がないように注意しながら編集する必要があることに気付き、情報モラルが高まった。

## 【研究授業の様子】

